

事例No.54 教育現場でのICT活用

農業・林業
漁業

事業所名 企業名	松阪市立三雲中学校 公式ホームページ：http://www3.schoolweb.ne.jp/weblog/index.php?id=2420010				
所在地	松阪市	従業員数	33名	産業分類	学校教育

建設業

【事例の詳細】

機能	中学校の授業教材	使用 機器等	iPad・電子黒板・電子教科書
取組 内容	<p>「協働学習」（生徒同士が教え合い、学び合う学習）、「ICT教育」を教育研究のテーマに掲げ、全校生徒約470名および全職員にタブレット(iPad)を配布し、ICTを取り入れた授業・朝の学習・家庭学習などを行っています。</p> <p>タブレットを使った授業では生徒達自らが、撮る、書く、見る、見せる、送受信する、拡大するの6活用を日々実践しています。</p>		
導入 プロセス	<p>2011年度に総務省の「フューチャースクール推進事業」、文部科学省の「学びのイノベーション事業」の一環で当校がICT教育推進の実証研究校として選ばれたのがきっかけです。</p> <p>当初はほとんどの職員がICT機器に触れた経験がなく、どう活用すれば学習効果を上げることができるのかもわからず不安もありました。</p>		
成果 効果	<p>ICT教育も6年目を迎え、様々な場面で成果を感じることができました。</p> <p>従来の紙教材は、生徒全員に行き渡るまで時間が掛かりますが、ICT教育では瞬時に生徒達のタブレットに資料が表示されますので授業効率が大幅に上がり、その分生徒が考える時間を増やすことができました。</p> <p>タブレットでの新しい感覚の授業が、苦手教科の克服につながったことも多くあります。また、個人の思考の成長だけでなく、生徒間でのグループ思考や課題共有、クラス全体での共有など、あらゆる学習活動をサポートしてくれています。</p> <p>すべての授業をICTを活用して行っている訳ではもちろんありませんし、タブレットを長く使うことが必ずしも良い授業ではありません。</p> <p>あくまで生徒たちの学習活動での思考力、判断力、表現力等を育成するための手段の一つだと捉えています。</p> <p>授業とは何か、教育とは何かを教員も再認識しながら、今後もICT教育に取り組み、教育現場での新たな発見を追求したいと考えています。</p>		

製造業

情報通信業

運輸業・郵便業

卸売業・小売業

金融業・保険業

飲食サービス業
宿泊業

生活関連サービス業・娯楽業

【取組みの狙い】

企業ブランドの強化	品質向上	従業員の成長サポート
独自性・独創性の創造・強化	付加価値の創造・強化	労働環境の改善
商圏・販売チャネル・新規顧客の拡大・開拓	生産・業務効率の向上	勤怠管理の効率化
顧客満足度の向上	生産・業務プロセスの改善	その他
価値・品質の見える化	情報管理の効率化	

医療・福祉

その他